園内マップ

バラ園（メイン会場）

バラ園では、モダンローズ・オールドローズや世界の野生種など約700種類のバラが咲き誇ります。
また、バラ園から見える瀬戸内海や島々の景色はとてもきれいで見応えがあります。

ローズフェスティバル2019

5/11〈土〉～5/26〈日〉 ガイドマップ

広島市植物公園

イベント一覧 各日13:30～

5/11(土)	ミニ講座「バラの育て方」	展示資料館2F講堂
5/12(日)	ミニ講座「ミニバラを咲かせよう」	展示資料館2F講堂
5/18(土)	バラ講習会「鉢で美しく咲かせるバラ」 沖田 靖（やすし）さん（やまぐちフラワーランド）	展示資料館2F講堂
5/19(日)	ミニ講座「ルドゥーテが描いたバラ」	バラ園
5/25(土)	ミニ講座「ミニバラを咲かせよう」	展示資料館2F講堂
5/26(日)	ミニ講座「憧れのオベリスク仕立てに挑戦」	展示資料館入口外

麗しのモダンローズ ～戦後のバラ～

※文頭の西暦年は登録された年を示しています。

ピース
1939年にフランスで作出されたが、苗木は戦火を逃れアメリカに渡った。終戦直後の1945年に平和への願いをこめて名づけられた。世界バラ会連合殿堂入り。

ドフトボルケ
1967年。ドイツ生まれの品種。朱色の盃咲きでフルーティーな香りがあり、フレグラント・クラウドの別名がある。世界バラ会連合殿堂入りの名花。

ひさみ
1988年。「ヒロシマ・スピリット」などを作出した原田敏行の作。ゆったりとした大輪花で、クリーム地に上品なピンクが入る。

ジャスト・ジョーイ
1972年。作出者は、妻の名にちなんだ名を付けようとしたが妙案が浮かばず、そのままジョーイでいいじゃないかとアドバイスを受けて決まった。世界バラ会連合殿堂入り。

アイスバーグ
1958年。半八重の純白花。光沢のある濃色葉とのコントラストが美しい。四季咲き、多花性の有名花。

フロリック
1953年。花付きが抜群に良く、しかも丈夫で育てやすい。フロリバンダ系の有望さを世に知らしめた品種。

ミス・オール・アメリカン・ビューティー（マリア・カラス）
1965年。名は20世紀最高のソプラノ歌手とまで言われた同名のオペラ歌手にちなむ。印象的な大輪の濃ローズ花。

パパ・メイアン
1963年。作出者のアラン・メイアンの祖父に捧げられたバラ。黒赤バラの代表的な名花。濃厚なダマスクモダンの香り。世界バラ会連合殿堂入り。

ピンク・ピース
1959年。「ピース」を作出したフランシス・メイアンの晩年の作。「ピース」の孫世代。ピンクのおおらかな花でフルーツ香がある。

オクラホマ
1964年以前。「パパ メイアン」や「ミスター リンカーン」と同じ交配組み合わせにより誕生した黒赤バラ。強いダマスク香がある。

ローズ・オオサカ
2001年。寺西菊雄の作。2006年に大阪で開催された世界バラ会議のシンボルローズになった。

バラの香りに魅せられて

⑫ ブルー・ムーン
HT
1965年。初期の青バラとしてあまりにも有名な品種。花付きよく強健で作りやすい。ブルーの香りといわれる、ダマスクとティーの混在した香り。

⑭ カザンリク
D
正式名は「トリギンティペタラ」という。ブルガリアのバラの谷と呼ばれる地域で、古くから香料採取用に生産されている。すっきりしたダマスク香。

⑮ 芳純
HT
1981年、鈴木省三の作。ダマスククラシックの香りで、資生堂からこのバラの香りを使った香水が発売された。

⑬ ダブル・デライト
HT
1977年以前。名は直訳すると「二重の喜び」で、花の美しさと、フルーティーと評される素晴らしい香りが特徴。

⑯ レディ・ヒリンドン
T
1910年。赤みを帯びた枝の先に淡い杏色の丸みを帯びた花がうつむきかげんに咲く。ティーの香り。日本では「金華山」の名でも親しまれてきた。

ヒロシマとバラに平和へのおもいを込めて

⑰ ヒロシマチルドレン
F
1985年。広島市の名誉市民であり平和運動家の故原田東岷氏の呼びかけに賛同した、世界的に著名なバラ育種家、J・ハークネス氏が、自分の自信作に命名したもの。

⑲ レッド・ラジアンス
HT
1916年。ラジアンスの枝変わり。当園の株は、長崎で自らも被爆し、原爆被爆者の救護に当たった故永井隆博士の邸宅にあったバラを、広島に植樹したものの分け株。

⑳ ヘレン・トローベル
HT
1951年。花色がオレンジからピンクの間で変化する。1952年に日本を訪れたアメリカのオペラ歌手ヘレン・トローベルが、両国の親善と平和の願いを込めて、このバラを記念植樹した。

⑱ ヒロシマ・アピール
HT
1985年。広島の田頭数蔵氏作出。1981年にローマ法王ヨハネ・パウロ二世が広島で発表した平和アピールをイメージした。

㉑ 広島平和記念公園
F
1999年。日本バラ会中国支部と広島バラ会が、ドイツのエルトビレ市に原田東岷氏を団長として訪れ、広島と名のつくバラを寄贈した。その返礼として同市から1999年1月に広島市に寄贈された。

メイド イン ジャパン ～日本で育成されたバラ～

㉒ 長良
HT
1940年。日本最初のバラ育種者で、海軍大佐でもあった有沢四十九郎の作。日本のバラの歴史上重要な品種だが、当園にしか保存されていなかった。

㉔ 天津乙女
HT
1960年。寺西菊雄の作。名は宝塚歌劇団のスターから。樹形がまとまりやすく、花壇用に向く。世界的評価を得た。

㉕ 花見川
ClMin
1986年。鈴木省三の作。名は千葉県にある河川から。ピンクの平咲き花を株一面に咲かせる。

㉓ 雲取
HT
1940年。「長良」同様、有沢四十九郎の作。日本のバラの歴史上重要な品種だが、当園にしか保存されていなかった。

㉖ たそがれ
F
1977年。青いバラの育種に取り組んだアマチュア育種家小林森治の初期の作。ラベンダー色の波打った花弁に黄色いおしべが美しい。

風景をつくりあげる ～つるバラ～

㉗ シンパシー
LCl
1964年。つやのある葉に深い赤色の花。赤つるバラの代表的名花。香りもある。

㉙ アンクル・ウォルター
LCl
1963年。整った剣弁高芯の大輪花で、秋まで繰り返し咲き続ける。

㉚ ピエール・ドゥ・ロンサール
LCl
1987年。人気No.1のつるバラ。豪華な大輪カップ咲きで中心に近い花弁はピンクで、外にいくほど白くなる。世界バラ会連合殿堂入り。

㉘ ロージー・マントル
LCl
1968年。鮮やかな濃ピンクの剣弁高芯花で、香りがある。

㉛ プロスペリティ
HMsk
1919年。株全体が白い房咲き花で埋め尽くされるほど花付きが良い。ムスクの香りがある。夏から秋にかけての返り咲きもある。

レトロモダンなバラ ～大政奉還から終戦まで～

㉜ ラ・フランス
HT
1867年。フランスのギヨーが発表したが、交配親は不詳。当時としては画期的な大輪・完全四季咲き性で、後にモダンローズ第一号品種とされた。

㉞ プレジデント・マーシャ
HT
1933年。オランダで作出された。現在ほとんど見ることのできない、忘れられたアーリー・モダン・ローズ。

㉟ マダム・コシェコシェ
HT
1934年。淡いオレンジ色の花が細めの枝にうつむき加減にさく。枝が赤くティーの香りがあり、ティーローズの面影を感じる。

㉝ キラーニー
HT
1898年。初期の貴重なハイブリッド・ティーで、古くは「洛陽」の名で知られた。明るいピンクで花弁の底に白いぼかしが入る。

㊱ グルス・アン・アーヘン
F
1909年。ドイツで作出されたが、イギリスで人気が出た。イングリッシュガーデンでは草花と混植されることが多い。

バラの歴史をたどる ～オールドローズ～

㊲ トリヨンフ・デ・ルクセンブルグ
T
1848年以前からあったとされる、初期のティーローズ。わずかに黄味を含んだ柔らかそうなピンクの剣弁花からは強いティーの香りが放たれる。

㊵ オータム・ダマスク
D
西洋で古くから知られていた秋にも返り咲くバラ。強いダマスク香がある。系統名の「ダマスク」はシリアの首都ダマスカスに由来する。

㊸ ヴァリエガータ・ディ・ボロニア
B
1909年。絞り花の中でも最も人気のある品種のひとつ。カップ咲きで強いダマスク香。昨年からアーチ仕立ての株も登場。

㊳ サフラノ
T
1839年。中国からもたらされた「パークス・イエロー・ティー・センティッド・チャイナ」の子孫。淡いクリーム色はそれ以前の西洋バラにはないもので、育種家たちの真の黄花への夢を駆り立てた。

㊶ ケンティフォリア・ブラータ
C
しわのある葉と大輪の花が特徴。ルドゥーテの「バラ図譜」に描かれている中でも特に人気があるバラのひとつ。

㊹ ウィリアム・ロブ
M
1855年。咲き進むと赤紫から青紫に変化する。樹高が高くつるばらとして利用できる。つぼみにコケ状の突起があるモスローズの一種。

㊴ クラモワジ・ピコテ
G
1834年。赤紫色の小輪花。濃淡のあるピンクの縮れた花弁が枚数多く球状に並び、全体としてポンポン咲きのようになる。中心はボタンアイになる。

㊷ オールド・ブラッシュ
Ch
1793年にイギリスのパーソンが入手したと伝えられる。中国からヨーロッパに渡り、バラの進化に多大な影響を与えた4つの品種のうちの一つ。完全な四季咲き性。

㊺ パルビフォリア（ポンポン・ドゥ・ブルゴーニュ）
C
1664年以前。指2本ほどの小さな花で葉も小さいが、しっかりとダマスク香を感じることができる。現代のミニバラにはない稀有な魅力。

主なモダンローズの系統

ハイブリッド・ティー（HT）
19世紀後半、ハイブリッド・パーペチュアル（HP）にティー（T）が交配されて成立した。完全四季咲きで大輪花。モダンローズの代表的な系統。

フロリバンダ（F）
20世紀に入り成立した。完全四季咲きで房咲き中輪花。多花性で現代のバラ園には欠かせない系統。

クライミング（Cl）
つるバラの総称で、木立性の品種（HTやFなど）から枝変わりでつる性になったものや、つる性の原種から改良されたラージフラワード・クライマー（LCl）など、遺伝的な背景は様々。

ミニチュア（Min）
「ルーレッティ」（ロサ・キネンシス・ミニマの一系統）の性質を受け継ぐ、葉も花も小さな系統。つる性のクライミング・ミニチュア（ClMin）もある。

ハイブリッド・ムスク（HMsk）
20世紀に入ってから確立した系統で、多くは返り咲き性がありコンパクトなつるバラとなる。ムスクローズに似ていることから名づけられた。

主なオールドローズの系統

ガリカ（G）
中近東からヨーロッパにかけて紀元前からあった系統で、薬用・香料用。コンパクトな樹勢。自根ではひこばえが多数出る。

ダマスク（D）
中東由来のバラで、ヨーロッパでは十字軍遠征を機に広く知られるようになった。ブルガリアで香料用に生産されている。

ケンティフォリア（C）
ヨーロッパで16～18世紀にかけて生みだされた交配バラ。キャベツの葉のように花弁が多く、丸弁のカップ咲き。

モス（M）
18世紀中ごろにケンティフォリア（C）などから派生した系統で、がくや花首に繊毛があり、コケが密生しているように見える。

チャイナ（Ch）
中国原産のロサ・キネンシス（庚申バラ）とロサ・ギガンテアに起源を持つバラ。四季咲き性・剣弁。

ティー（T）
中国原産のロサ・ギガンテアに由来するティーの香りを持つ系統。

ブルボン（B）
19世紀初頭にインド洋ブルボン島（レユニオン島）にあった西洋・東洋系混血バラに由来する系統。返り咲きする品種が多い。